

これまで、古墳時代前期の^{たてあなたてもの}竪穴建物6棟以上、^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物9棟が見つかるほか、川跡からは大量の土器と木製品が出土しました。

中でも竪穴建物の1棟(4号住居)では、^ろ小型の炉跡5基が確認され、^{どうぞく}銅鑞の未成品2点が出土していることから、^{ちゅうぞう}小型銅製品を^{ちゅうぞう}鑄造・生産した工房であったと考えられます。

この時期の鑄造炉を伴う工房の確認例は極めて少なく、当時の銅製品鑄造技術や地方での生産の実態を考えるうえで、重要な発見となりました。



銅鑞の未成品

この他、焼失した竪穴建物(5号住居)では、^{てっさい}鉄滓(鉄を精錬する際に出る不純物)が出土しており、^{かじ}鍛冶が行われていたことも推定されます。

掘立柱建物の柱穴は深いものも多く、柱の根元(柱根)が残っているものもありました。柱には太い立派な材木を用いており、重厚な建物であったことがうかがわれます。



柱穴内の柱根

川跡から出土した木製品には、漆が塗られた容器と見られるものや、火起こしに使われた火きり臼、建築部材などのほか、水辺の祭祀に使われたとみられる桃の種もたくさん出土しています。

これらのことから八日市遺跡の集落は、いわゆる一般集落とは異なる性格を持つものであった可能性が考えられます。

年表(弥生時代中頃～古墳時代)				
西暦	時代	日本のできごと	石川県のできごと	八日市遺跡の様子
400頃	弥生	農耕文化が伝わる	八日市地方遺跡(小松)、吉崎・次場遺跡(羽咋)など大型拠点集落の成立 玉作りが盛んになる (八日市地方遺跡のヤリガンナ)	
300頃		金属器の伝来 青銅器(銅鐻、銅剣など)の製作		
B.C A.D	古墳	邪馬台国の成立 「魏志倭人伝」	小菅波4号墳、分校カン山1号墳(加賀)など初期古墳の築造 雨の宮古墳群(中能登)、秋常山1号墳(能美)など大型古墳の築造	集落の成立 竪穴建物で火災 建物の大型化、銅製品の鑄造 集落の廃絶
250頃		大型古墳が作られる		
500頃		須恵器の生産が始まる	南加賀古窯(小松)で須恵器の生産 法皇山横穴古墳(加賀)	

加賀市 八日市遺跡 現地説明会資料

平成29年10月29日(日)
(公財)石川県埋蔵文化財センター

- 〔調査地〕 加賀市八日市町地内
 〔調査原因〕 北陸新幹線建設
 〔委託者〕 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 〔受託者〕 石川県教育委員会(調査担当:公益財団法人石川県埋蔵文化財センター)
 〔調査期間〕 平成29年6月12日～平成30年1月(予定)
 〔調査面積〕 3,290㎡(予定)

ホームページ
いしかわの遺跡 を 検索



八日市遺跡と周辺の主な遺跡

〔調査概要〕 八日市遺跡は、JR加賀温泉駅の東約1.8km、柴山瀧へ流れ込む八日市川右岸の低地に立地します。西隣には弓波遺跡が、北側には猫橋遺跡が存在します。

今回の発掘調査は、北陸新幹線建設に伴うもので、遺跡を東西に横断する調査となっています。

調査の結果、八日市川へ流れ込むとみられる小川を確認し、その北岸に古墳時代前期頃(約1,700年前)の集落が営まれていたことが明らかになりました。



空から見た遺跡(奥に柴山瀧が見えます)



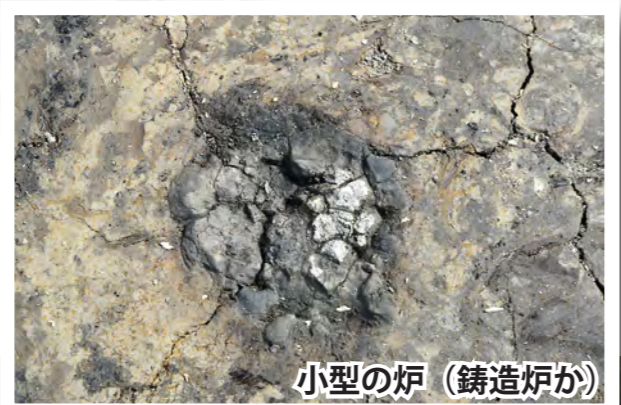
4号住居



3号住居



川跡



小型の炉 (鑄造炉か)



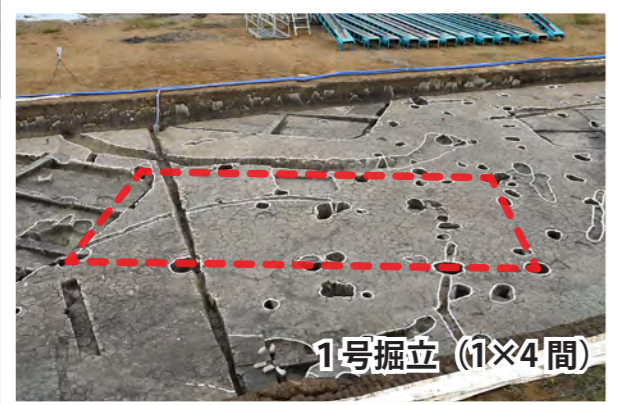
周溝からの土器出土状況



遺物出土状況



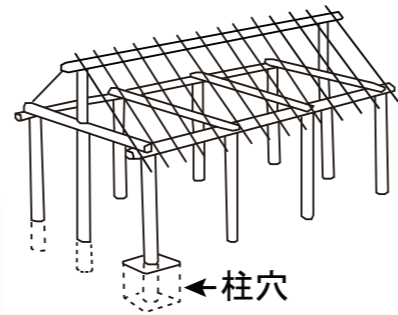
○号住居 = 竪穴建物
○号掘立 = 掘立柱建物



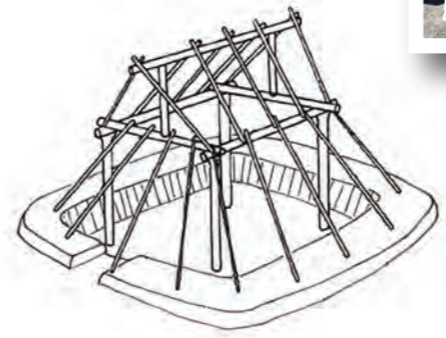
1号掘立 (1×4間)



3号掘立 (2×2間)



ほったてばしらたてもの
掘立柱建物の復元図



竪穴建物の復元図



5号住居



土器出土状況



貯蔵穴 (蓋)